## -平成 27 年度環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業-最終報告書

付録 3:協働ギャザリング 2016(年度末報告会)
ー「プロジェクト・マネジメント」と「協働ガバナンス」の評価
(個別案件)

## 【付録 3:「プロジェクト・マネジメント」の評価と「協働ガバナンス」の評価(個別案件)】 協働ギャザリング 2016 年度末報告会)における指摘事項

## 【表付録 3-1:協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づく「プロジェクト・マネジメント」(事業)/「協働ガバナンス」(協働)の有効性(プラス評価点)】 ※[]内は採択された協働取組事例

			21(E31 310(B)(3)(C)(0	プラス評価点
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	11月11市田島加月11の1	
		効率性	現場と専門的知見とのリ	
		効果/目標達成度		ちな資料館の活性化に貢献。[1]
				有することで、新たな気づきと解決策の可能性が見えそう。[1]
				い。伝えることは大切なこと。[1]
				シフト。 (地域内→全国)[1]
		計画妥当性	体系的なプランニング・	提案・ステークホルダーとのリンク。[1]
		関係主体の巻込度	行政への要求から多様	な主体に巻き込みによる協働に変わったこと。[1]
			相互参照だけではなく、	. 協働ビジョンを語る場作り・ネットワーク。[1]
			ビジョンを作って目的を	しっかりと共有したこと。[1]
F . 7	事		様々な主体の"フラット"	な関係作りができたこと。[1]
[1]	事業	関係主体の満足度	フォーラムで地域(地元	)が変わる。[1]
公				なフォーラムと深めるクローズドな研究会の使い分け。[1]
害		社会的インパクト		。これからの開発には重要な視点。特に新興国(インド、中国な
資			ど)にアピールしてほしい	
料			公害の全体像が共有さ	
館			体験機会の場の認定を	
ネ				シフト(地域内→全国)[1]
ツ		自立発展性	ネットワークの"機能"を	
-				ける協働ビジョンを作成。専門性+現場意識。「1〕
ワ				しっかりと共有したこと。[1]
ļ		開始時の状況		ジャッとストゥンにこと。[1] :導しているのがすばらしい。[1]
ク		運営制度の設計	"場に対する信頼関係"	
		建当 削及 ひ 政 引	30c カッ 5 日 根 民 床 ステークホルダーが仲間	
				ョルスタンに。 [1 な関係作りができたこと。 [1]
		<u></u> 協働のプロセス	要求から協働へ、信頼を	
	協	伽惻のノロセス		プロアロン。[1] ける協働ビジョンを作成。専門性+現場意識。[1]
	働			
				. 協働ビジョンを語る場作り・ネットワーク。[1]
			行政への要求から協働 フォーラムで地域(地元	
				けが変わる。[1] としっかりと共有したこと。[1]
		AL AA ME		シフト。(地域内→全国)[1]
[2]		効率性		ランティアのアイデア。[2]
人				域の人が参加できていい。[2]
ے			地域全体の取り組みに	
海		効果/目標達成度		とで多くの理解を得られている。[2]
鳥				猫を譲渡するのではなく、人と猫と海鳥が共生する環境のため
٤		-1	にどうすればいいかがら	
猫		計画妥当性		「馴化」という落としどころを共有したこと。[2]
が			ボランティアと観光振興	
共			溝鼠対策の必要性に共	
生	事業	関係主体の巻込度		j。ノラネコによってコミュニケーションが生まれていると思う。[2]
す	耒		天売島への往復チケッ	
る				域の人が参加できていい。[2]
天			ボランティアを活用した	
売			ボランティアによる取り終	且みであることと多様な主体との連携を図っていること。[2]
島			地域全体の取り組みに	
			企業との連携。(CSR・	
連			ホームセンターとの連携	<del>\$</del> . [2]
絡			一見関係なさそうな企業	美や観光、道外の方の巻きこみ。[2]
協		関係主体の満足度	観光とつながっているこ	とで多くの理解を得られている。[2]
議				民、大学生、動物園とたくさんの人がかかわっているところがす

会				ごい。[2]
		社会的インパクト	•	観光へつなげるところがいい。[2]
		1224512	•	天売猫を観光ツールに。[2]
			•	観光客が増えたことは参考になる。[2]
			•	外来種・外来生物でも同じモデルができるのでは。[2]
			•	地域猫の問題に悩む他地域にも活用してほしい。[2]
			•	ノラネコ対策から地域振興につなげるのがいい。ぜひ参考にしたい。[2]
			•	地域で連携したよい取り組み。類似課題を抱える他の島の活動へぜひ発信共有を。
				[2]
		自立発展性	•	馴化作業がいい。ただ猫を譲渡するのではなく、人と猫と海鳥が共生する環境のため
			_	にどうすればいいかが分かりやすい。[2]
			•	大学や企業(ホームセンター)の巻き込みがよい。関係をつくったことで周知効果が大き
			•	かった。[2] 地域で連携したよい取り組み。類似課題を抱える他の島の活動へぜひ発信共有を。
				に域く建協したよい取り組み。類似麻風を抱える他の面の指動へとして光情共行を。 [2]
		開始時の状況	•	「イエネコにとっても必ずしも良い生活環境ではない」に納得。[2]
		運営制度の設計	•	仕組みがおもしろい。馴化して譲渡、さらに天売猫のふるさとへという切符が観光振興
	1+1			にもつながっている。[2]
	協働		•	多様なステークホルダーの巻き込み。[2]
	1-43	協働のプロセス	•	馴化作業がいい。ただ猫を譲渡するのではなく、人と猫と海鳥が共生する環境のため
				にどうすればいいかが分かりやすい。[2]
		11 12	•	即「駆除」に頼らないで「馴化」という落としどころを共有したこと。[2]
		効率性	•	環境団体だけではなく、スローフードを推進する団体も前面に立っていることの魅力と
				可能性。[3]
		効果/目標達成度	•	専門家、三素、村内調整、他団体による役割分担がしっかり、はっきりしている。[3] 協働事例を他の地域で進めたところがすごい。[3]
		が オノロ 保 圧 成 反	•	富良野で培ったノウハウをただ転用するのではなく、地元団体と互いに育成しながら行
				っていること。[3]
		計画妥当性	•	災害対策と電源開発を合わせて行う取組の協働に共感。今後重要になる。[3]
			•	自然エネルギー発電いい。[3]
		関係主体の巻込度	•	地域へアプローチしているところがいい。[3]
	事業		•	企業のかかわり方がいい。[3]
	業		•	環境負荷なども含めて、住民と一緒に今後のことを考えること。[3]
[3]		関係主体の満足度	•	地域に根ざすことで推進力アップにつながる。[3]
Ξ		社会的インパクト	•	富良野で培ったノウハウをただ転用するのではなく、地元団体と互いに育成しながら行
素				っていること。[3] 小水力発電はとてもいい。ツールとして、もっと同じような環境にある市町村他でワーク
			•	小小刀先电はとくもでい。ノールとして、もつと向しよりは環境にある印画和他でリークショップをされては。[3]
		自立発展性	•	富良野で培ったノウハウをただ転用するのではなく、地元団体と互いに育成しながら行
		日立九及江		っていること。[3]
			•	小水力発電はとても良い。ツールとして、もっと同じような環境にある市町村他でワーク
				ショップをされては。[3]
		開始時の状況	•	エネルギー利用の目的が明確。[3]
		運営制度の設計	•	行政の人も一村民としてフラットに話し合える場づくり。[3]
	協	_	•	専門家、三素、村内調整、他団体による役割分担がしっかり、はっきりしている。[3]
	働	協働のプロセス	•	富良野で培ったノウハウをただ転用するのではなく、地元団体と互いに育成しながら行
			_	っている。[3] 理事なるに関われることでは、また「2]
F 4 7		かっませ	•	調整を行う「間に立てる団体」があった。[3]
[4] あ		効率性	•	たくさんの異なる立場の人、組織が関わっている。[4] 若者が中心に参加するプロジェクトってうらやましい。[4]
き			•	地域課題と環境のコラボがいい。収支がシンプルそうで事業化の実現度が高そう。[4]
た		<b>从水产口水产以</b> 及	•	就業者のモチベーションアップにより事業改善につながること。[4]
地	事		•	訓練者の方自身が楽しく参加、理解、学ぶ取り組みに賛成。[4]
球	事 業		•	仕事は人間の大切な時間の使い方のひとつであり、誰もが働く喜びを感じられるように
環				なることはよい。[4]
境			•	訓練者の方が社会貢献になっているという意識を持って積極的に取り組んでいること。
会				[4]
議		計画妥当性	•	地域課題と環境のコラボがいい。収支がシンプルそうで事業化の実現度が高そう。[4]

			● 2 つの課題を掛け合わせて新しい課題を作るというアイデアが新鮮。[4]
			● 課題×課題でブレイクスルー発想がうまれる。[4]
			● 「引きこもり対策」→社会復帰×「林業活性化」この両方の社会問題を協働取組したア
			イデアはユニーク。共感が得られると思う。学校での環境教育に結び付けることで引き
			こもりも減少すると思う。[4]
			● 地域課題と環境問題を組み合わせたのは非常に良いです。[4]
			● 社会課題×社会課題→円と円の重なり部分!というのが発見の視点。[4]
			● 10%の引きこもりに驚き。やはり仕事の場が必要。[4]
			● 中山間地での拡大可能性。[4]
			● 課題(引きこもり)×課題(未利用材)=解決(地域活性化)というロジックで課題ごとのア
			プローチ、ゴールイメージが共有できている。[4]
		関係主体の巻込度	● たくさんの異なる立場の人、組織が関わっている。[4]
			● 異分野の各課題解決、これぞ協働のタネ。[4]
			● 課題×課題=ブレイクスルー。[4]
			● 異なる分野の主体が連携、顔を合わせて話をする。[4]
		関係主体の満足度	● 異業界の内容をていねいに理解して活動を展開したこと。[4]
		社会的インパクト	● 10%の引きこもりに驚き。やはり仕事の場が必要。[4]
			● 環境と福祉の連携は他都市でも応用しやすい。「顔合わせ」「やる気」参考になる。[4]
			● 中山間地での拡大可能性。[4]
			● 就労支援が社会貢献につながる。[4]
			● 仕事は人間の大切な時間の使い方のひとつであり、誰もが働く喜びを感じられるように
			なることはよい。[4]
			● 訓練者の方が社会貢献になっているという意識を持って積極的に取り組んでいること。
			[4]
		自立発展性	● 訓練者のコミュニケーション力の向上につなげている。[4]
			● 本取組が経済循環や公共利益と連動して役割分担が明確、有効となった。[4]
			● ソーシャルビジネス化できている点が素晴らしい。[4]
		開始時の状況	
		運営制度の設計	● 異分野の各課題解決、これぞ協働のタネ。[4]
			● 参加者主体で進んでいる。[4]   ● 地域の方や産業への一つ一つマメな誘いがけ行動。[4]
		<u></u> 協働のプロセス	● 地域の方や産業への一つ一つマメな誘いがけ行動。[4] ● 環境と福祉の連携は他都市でも応用しやすい。「顔合わせ」「やる気」参考になる。[4]
	l to	が割のプロセス	● 社会課題を共有したプロセス。[4]
	協働		■ 「リーダーシップ」を引き出す必要性への気づきがいい。帰属意識プラス積極性の醸
	13		成。[4]
			● 異業界の内容をていねいに理解して活動を展開したこと。[4]
			● 異なる分野の主体が連携、顔を合わせて話をする。[4]
			● 課題(引きこもり)×課題(未利用材)=解決(地域活性化)というロジックで課題ごとのア
			プローチ、ゴールイメージが共有できている。[4]
		効率性	● 地域発のプロジェクト。[5]
		効果/目標達成度	● エタノール→せっけん→エサ→卵お菓子。地域外から来てもらうところにつなげたところ
			がすごい。[5]
			● 地域でシンボリックなエタノール化が"アイコン"になっている。[5]
			● 商品・サービス開発が地域密着ですすんでいるところ。[5]
[-1			● 生産者の平時の事業の中で協働が成立している。[5]
[5] マ		計画妥当性	● ピンチが仕組み作りのチャンスになったことがいい。[5]
イ			● 食べることと地域循環の仕組み。[5]
7			● 景観を守るがベースにあっての循環型の農業、そのしくみが素晴らしい。[5]
マ	事業		● 「風景を守る」に共感する。[5]
7	業		● ゴミが出ない農業→普遍性があり新鮮。[5]
, ,		関係主体の巻込度	● ツアーを通して地域外とつながるのはよい。[5]
奥			<ul><li>● 他地域を巻き込んだ協働。[5]</li></ul>
州			● ツーリズムの他地域の巻き込み方。[5]
		即はナルッサロナ	● 誰でもできる取組であることがいい。[5]
		関係主体の満足度	● 農家主体による六次産業化。[5]
		社会的インパクト	● 散居集落ポテンシャルがすごい。[5]
			● みんなで楽しいまちにしようという方向性での食べるワークショップが分かりやすい。[5]
			▲ 切働版如し字类(蛆)しぶっわぶった版如べまり 翌月 エジャフ 「♬」
			<ul><li>● 協働取組と実業(糧)とがつながった取組であり、説得力がある。[5]</li><li>● 商品・サービス開発が地域密着ですすんでいるところ。[5]</li></ul>

			● 休耕田の解消から米、養鶏、エタノールなどの生産という好循環の事業なので、他地域
			にも広げてもらいたい。[5]
		自立発展性	● 思いが整理されている。[5]
			● 誰でもできる取組であることがいい。[5]
			● 地域循環→これを地域ブランドにしていく可能性が広がりを感じる。[5]
			● 協働性→広がり性があるとりくみ。[5]
			● 楽しい循環のしくみがいい。[5]
			● 地域の方がはじめた事業であることがいい。循環が継続することで事業にも継続性が
			生まれそう。「57
			● 地域資源の理想的な循環が図られていていい。[5]
			● 協働取組と実業(糧)とがつながった取組であり、説得力がある。[5]
			<ul><li>● 生産者の平時の事業の中で協働が成立している。[5]</li></ul>
			● 取組を進めることで地域の方々が自分達の地域を知るきっかけになっている。[5]
			● 協働により横のつながりが生まれ、地域の特性の発信が実現。[5]
		開始時の状況	● 地域発のプロジェクト。[5]
		DIDENTAL OF DOOR	● 地域の方がはじめた事業であることがいい。循環が継続することで事業にも継続性が
			生まれそうでいい。[5]
		運営制度の設計	● 誰でもできる取組であることがいい。[5]
	<b>↓</b> ⊅₁	協働のプロセス	● 協働取組と実業(糧)とがつながった取組であり、説得力がある。[5]
	協働	が割りプロセス	
	12/1		
			● 生産者の平時の事業の中で協働が成立している。[5]
			● 伝えること、役割分担、大事。[5] ************************************
			● 協働により横のつながりが生まれ、地域の特性の発信が実現。[5]
	-	+1 ++ ++	● 楽しい循環のしくみがいい。
		効率性	Action First.としてまず動くことは見習いたい。[6]
			● 行政が苦手な「まずやってみる」ができる。[6]
			● ボランティアの活用がいい。[6]
			<ul><li>専門的技術、知識の導入はさすがオイスカ。[6]</li></ul>
			● 調査ボランティアとして 200 人集めた。[6]
		効果/目標達成度	● 周囲の自治体との差別化として食べ物を打ち出すのもいい。[6]
		-1	● 魅力的な森で、企業へのアピールができる点がうらやましい。[6]
		計画妥当性	● 調査活動の受け入れ態勢が出来上がっているのがすごい。[6]
			● 周囲の自治体との差別化として食べ物を打ち出すのもいい。[6]
			● 次の世代に引き継ぐというコンセプトがいい。[6]
			<ul><li>● 自然関係を上手く体験できる仕組みづくり。食=調査。[6]</li></ul>
	車		● 上手い魚で胃袋をつかみ、リピーターを確保するのはいい。お金ではない。[6]
[6]	業	関係主体の巻込度	<ul><li>◆ 体験してもらって巻き込んでいく手法。[6]</li></ul>
オ			● 文化の伝承と環境保全という視点がいい。[6]
1			● 活動実践をして引き込んでいったところがすごい。[6]
, ス			● 地域の巻き込みもいい。[6]
カ		関係主体の満足度	● 自然関係を上手く体験できる仕組みづくり。食=調査。[6]
/3			● 関係者にとって良い経験を生み出している。[6]
			● 350年の森行ってみたい。ボランティアの調査!いいと思う![6]
			● 地元参加者の巻き込みが上手。オイスカのノウハウが活かされている。学びが多そう。
			[6]
			● 「魚」との関係性でつながる。[6]
			<ul><li>● 上手い魚で胃袋をつかみ、リピーターを確保するのはいい。お金ではない。[6]</li></ul>
		社会的インパクト	● 文化財、自然資源保全モデルで役立ちそう。[6]
		自立発展性	•
		開始時の状況	•
	122	運営制度の設計	● 自然関係を上手く体験できる仕組みづくり。[6]
	協働		<ul><li>● 継続的にボランティアを引きつけるには胃袋をつかむ。[6]</li></ul>
	127)	協働のプロセス	● 関係者にとって良い経験を生み出している。[6]
			<ul><li> ● 次の世代に引き継ぐというコンセプトがいい。[6]</li></ul>
[7]		効率性	•
خ خ		効果/目標達成度	● 可視化への着目がいい。[7]
が	事業		<ul><li>■ 川上、川中、川下の話をよく聴き、ニーズを把握している。そして「森の机事業」のような</li></ul>
み	未		分かりやすい提案がいい。[7]
湖			● 小学校を巻き込むこと。環境教育につながる点でいいと思った。[7]
	4		

計画妥当性	森			•	子どもたちへのアプローチがいい。[7]
のかのやすい地震がいまい。[7] ・ 本の地で表現でいたのより間に、[7] ・ ですがっていたのより間のあるの目に、[7] ・ ですがっていたのより間のあるの目に、[7] ・ にないからからいのシャンカルなタイルがい。[7] ・ にとサーチャンスがいい。[7] ・ とソチーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ とパーチャンスがいい。[7] ・ というのから、がすごい。[7] ・ というのから、「アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・アール・			計画立 4 性		
###			分かりやすい提案がいい。[7]		
○ くすぶっていた公共選問の本が別印し、[7] 「行い・本が、「のシン・プリースなみイルが、い、[7] 「対い・カー・カー・アン・スが、い、[7] 「関係主体の巻込度		<ul><li>グ</li><li>が事業が事業としておもしろい。[7]</li><li>√すぶっていた公共課題のあぶり出し。[7]</li></ul>			
「おいーから」へのシンフルなスタイルが、い。[7]   ビンチ・ディンスが、い。[7]   ビンチ・ディンスが、い。[7]   団(ドロ)」というから、いっという姿勢が、い。[7]   団(ドロ)」というが、よっと、後のと、がすごい。[7]   丁塚などアシグ(情報把別から実施の流れ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるとこ。[7]   上されるが、すごく大切です。[7]   上されるとこ。[7]   上されるが、すごく大切です。[7]   上立発展性   「歩な守る=山土にお金を巻とすがぶんと、地域でまわすということ。[7]   上立発展性   「歩な守る=山土にお金を巻とすがぶんと、地域でまわすということ。[7]   連絡開度の設計   ふところの広、[7]   上本機係者、製造者、市民、行政などから、なぜ木材の店用が客性しないかとアリング したこと。[7]   上川・川・川・アの話と、代表とこと。[7]   本株関係者、製造者、市民、行政などから、なぜ木材の店用が客性しないかとアリング したこと。[7]   上川・川・川・アの話と、代表と、たった、など、作ると、たった。[7]   たくさんのメアーカルゲート ア想以上でも会け入れるところ。[7]   たくさんのメアーカルゲート ア想以上でも会け入れるところ。[7]   本格のグローキンググループに落とし込んだこと。[7]   上川・川・川・アの話と、代書と、一文・そして、条の机事業」のようなが、かったり、上は、でき、これを記述している。そして「森の机事業」のようなが、かったり、たったいたの大説のよのは、「7]   コないが、「7]   コないが、「7]   コないが、「7]   コないが、「7]   コないが、「7]   コないが、すごく大切です。[7]   「インボンでいたく、大器のは、「7]   「インボンでいたが、「8]   「インボン・アング(情報把題)から実施のがれ、「7]   コ酸としずまず、日の名といが、「8]   「アンガルディー」という面口の広、[8]   「アルーフラグ部底を対るしいが、「8]   「保護などステンがあいの力の口が、「8]   「保護などステンがあいの力を可能しいたとこ。[8]   「保護などステンがあいのかり、「8]   「保護などステンがあいのかり、「8]   「保護などステンがあいのかり、「8]   「保護などのかり、「8]   「保護などのかり、「8]   「保護などのかり、「8]   「保護などのかり、「8]   「保護などのかり、「8]   「保護などのののこいがに影のが推進がしたっている。[8]   「地域との対話・連携があるのいはい、[8]   「地域との対話・連携があるのいはい、[8]   「単版ののこれ、「4]   「単版ののこれ、「4]   「日本機能が、500にいい、[8]   「世域との対話・連携があるのいはい、[8]   「世域との対話・連携があるのいはい、[8]   「ドーブル・ア・ー」という同口のいた。[8]   「世域との対話・連携があるのいはい、[8]   「世域との対話・連携があるのいはい、[8]   「世域との対話・連携があるのいはいが、[8]   「世域との対話・連携があるのいはい、[8]   「世域との対話・連携があるのいはいが、[8]   「中域との対話・連携があるのいはいばればればればればればればればればればればればればればればればればればれば					
ドンチーチャンスがいい。[7]					
関係主体の巻込度   調整レナぎず、見守るという姿勢がいい。[7]   ではたプレンを行為。ふわった、ゆるった、がけごい。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   を変化をすごく続ける。[7]   をないのステータルがより、計画収集しても受け入れるところ。[7]   をところの広え。[7]   サンタイチェーンを通じた連携・協働のかたち。[7]   地方の本が名。すごく大切です。[7]   地方の本が名。すごく大切です。[7]   地方の本が名。すごく大切です。[7]   地方の本が名。すごく大切です。[7]   地方の本が名。またところの広え。[7]   を主体の「無たない」を対したこと。[7]   連定と温能、変体管源と大工などについての域内経済循環。[7]   本体的体の大災   本体的保険学、製造者、市民、行政などから、なぜ木材の活用が活性しないかとアリングしたこと。[7]   をなるのながる。[7]   をなるのながる。[7]   をなるのカンテークカル・ディンをとしない。[7]   ではなめのブロセス   川上、川川、川にのおきない時を、実施者、市民、行政などから、なぜ木材の活用が活性しないかとアリングしたこと。[7]   原でに対している。そして「森の和事業」のような分かりやすいでは、実施関のあるの出し。[7]   原でに対している。そして「森の和事業」のような分かりやすいにかないとない。「第七以入だこと。[7]   原でにたいてのよ連環節のあるの出し。[7]   原でにたいてのよ連環節のあるの出し。[7]   原でにたいてのよ連環節のあるの出し。[7]   東京とアジーがあるのはかい、[7]   東京とアジーがあるのはかいである。「第2   東京とアジーがあいてが可能を取りました。[8]   東京とアジーがあいてが可能を活用しまうとしたこと。[8]   東京と大学、東京とルー・デル・ア・ファックを目標にしたところがよい。[8]   東京とアンアンが、アンマンアンタを目標にしたところがよい。[8]   アントンアンタンのといい。[8]   東京とアンアンが、アンドル・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・					
職(アピリン・分子為、ふわっと、ゆるっと、がすごい。[7]			関係主体の巻込度		
多様性を十二く感じる。[7]   丁字なヒアリング (情報ル限)から実施の流れ。[7]   丁字なヒアリング (情報ル限)から実施の流れ。[7]   丁字なヒアリング (情報ル限)から実施の流れ。[7]   かくさんのステーカがルゲーがポイント。予想以上でも受け入れるところ。[7]   少プイチェーンを値上を連携・協働のかたち。[7]   タキ (本のない)を「知る」「ロながる」「は関係主体を引き出したこと)。[7]   世会別インパクト   自立発展性   「素を守る=山主にお金を傷とす」がポイント。地域でまわすというと。[7]   世会別インパクト   自立発展性   「素を守る=山主にお金を傷とす」がポイント。地域でまわすというと。[7]   世会別を成せ、			対水工体の心と反		
日本の					
たくさんのステークキャレダーがボイント。予想以上でも受け入れるところ。[7]	**1				
おところの広え。[7]					
サブライチェーンを通じた連携・協働のかたと。[7]				_	
関係主体の満足度				•	
知念、つたがる、すごく大切です。[7]   社会的インパクト			関係主体の満足度	•	
大会的インパクト   ●			网 / 八工   千〇 / 高 / 仁 / 文		
社会的インパクト				•	
自立発展性			社会的インパクト	•	カーエングルトングストンない/CCCC(CAVE JIC田のCCCC/6[7]
過密と過解、森林資源と大工などについての域内経済循環。[7]				•	「奔を守ろ=川主にお金を変とす」がポイント 地域でもわすということ [7]
開始時の状況				_	
Lたこと。[7]   運営制度の設計			関始時の状況		
選書制度の設計			יין אַרוּאָן עס וּיאַ נוּאָנוּאָן	-	
たくさんのステークホルダーがボイント。子想以上でも受け入れるところ。[7]			運営制度の設計	•	
株物のプロセス			<b>建日间及</b> 00000	_	
協働のプロセス				_	
おいかのですい提案がいい。[7]			協働のプロセス		
開く「だけ」という行為。ふわっと、ゆるっと、がすごい。[7]		協働		-	
マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マ				•	
各主体の「知らない」を「知る」「つながる」に展開できた(マッチング)こと。[7]   知る、つながる、すごく大切です。[7]   調整しすぎず、見守るという姿勢がいい。[7]   行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]   事務局を支える担い手が出てきた。[8]   事務局を支える担い手が出てきた。[8]   予以の職員やステークホルダーの頭の改革。[8]   予以を開口の広さ。[8]   予以を開放していて折衷案の交渉をしたこと。[8]   予以を開放していったこと。[8]   予以を開放していったこと。[8]   予以を開放していったこと。[8]   予以を開放していったこと。[8]   予以を目標にしたところがよい。[8]   予以・フルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   予認証で取るうという誰からも分かりやすい目標設定がよい。[8]   予認証で取るうという誰からも分かりやすい目標設定がよい。[8]   アルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   アルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   アルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   アルースラック部証を活用しようとしたこと。[8]   アントク・カング・					
知る、つながる、すごく大切です。[7]					
物率性					
事務局を支える担い手が出てきた。[8]   効果/目標達成度			効率性	•	
***   **   **   **   **   **   **   *				•	
大の散歩について折衷案の交渉をしたこと。[8]   一行政職員やステークホルダーの頭の改革。[8]   計画妥当性   一環境課題を観光と地域マネジメントからアプローチしたのがいい。[8]   一環期」をステップ踏んでビジョン(BF)にもっていったこと。[8]   具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   ブルーフラッグ部証を活用しようとしたこと。[8]   で認証で取ろうという誰からも分かりやすい目標設定がよい。[8]   いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]   地域との対話・連携があるのはいい。[8]   ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]   いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]   ル域との対話・連携があるのはいい。[8]   ステークホルダーを巻き込んでの体制づくりができていていい。[8]   地域との対話・連携があるのはいい。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   東条局を支えが、主体的な市民が出てきた。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   世域との対話・連携があるのはいい。[8]   単大会的インパクト   教育にまで広がりを見たこと。[8]   東条局を支える担い手が出てきた。[8]   単始時の状況   具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   単端時の状況   具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   アーチカルチャー」という間口の広さ。[8]   ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]			効果/目標達成度	•	
行政職員やステークホルダーの頭の改革。[8]   計画妥当性				•	
				•	行政職員やステークホルダーの頭の改革。[8]
			計画妥当性	•	環境課題を観光と地域マネジメントからアプローチしたのがいい。[8]
日本的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]				•	「課題」をステップ踏んでビジョン(BF)にもっていったこと。 [8]
***   **   **   **   **   **   **   *				•	
<ul> <li>若 決 高</li></ul>	[8]			•	ブルーフラッグ認証を活用しようとしたこと。[8]
狭高       **       ・ いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]         関係主体の巻込度       ・ 他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]         ・ 地域との対話・連携があるのはいい。[8]       ・ いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]         ・ いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]         ・ なみによることで集めた。[8]         関係主体の満足度       ・ 他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]         ・ 地域との対話・連携があるのはいい。[8]         ・ 社会的インパクト       ・ 教育にまで広がりを見たこと。[8]         自立発展性       ・ 行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]         ・ 事務局を支える担い手が出てきた。[8]         開始時の状況       ・ 具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]         ・ 運営制度の設計       ・ 「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]         ・ ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]		L.		•	"認証"を取ろうという誰からも分かりやすい目標設定がよい。[8]
高 浜 観 光 協 会   関係主体の巻込度   他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]   地域との対話・連携があるのはいい。[8]   ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]   いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]   多様なステークホルダーを巻き込んでの体制づくりができていていい。[8]   他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]   地域との対話・連携があるのはいい。[8]   社会的インパクト   教育にまで広がりを見たこと。[8]     自立発展性   「で政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]   事務局を支える担い手が出てきた。[8]   開始時の状況   具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]     場けの状況   関が時の状況   具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]   ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]		事業		•	いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]
<ul> <li>無機</li> <li>光協会</li> <li>関係主体の満足度</li> <li>他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]</li> <li>社会的インパクト</li> <li>自立発展性</li> <li>開始時の状況</li> <li>関係的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]</li> <li>地域との対話・連携があるのはいい。[8]</li> <li>開始時の設計</li> <li>東務局を支える担い手が出てきた。[8]</li> <li>環営制度の設計</li> <li>「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]</li> <li>ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]</li> </ul>		未	関係主体の巻込度	•	他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]
<ul> <li>観光協会</li> <li>関係主体の満足度</li> <li>他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]</li> <li>社会的インパクト</li> <li>自立発展性</li> <li>所始時の状況</li> <li>関係的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]</li> <li>現体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]</li> <li>現体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]</li> <li>ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]</li> </ul>				•	地域との対話・連携があるのはいい。[8]
協会       ● 多様なステークホルダーを巻き込んでの体制づくりができていていい。[8]         関係主体の満足度       ● 他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]         ・ 地域との対話・連携があるのはいい。[8]         社会的インパクト       ● 教育にまで広がりを見たこと。[8]         自立発展性       ● 行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]         ・ 事務局を支える担い手が出てきた。[8]         開始時の状況       ● 具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]         協働       ● 「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]         ・ ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]	観			•	ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]
会 関係主体の満足度 ● 他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]	光			•	いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]
<ul> <li>地域との対話・連携があるのはいい。[8]</li> <li>社会的インパクト</li> <li>自立発展性</li> <li>行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]</li> <li>事務局を支える担い手が出てきた。[8]</li> <li>開始時の状況</li> <li>具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]</li> <li>運営制度の設計</li> <li>「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]</li> <li>ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]</li> </ul>	協			•	多様なステークホルダーを巻き込んでの体制づくりができていていい。[8]
社会的インパクト       参育にまで広がりを見たこと。[8]         自立発展性       「政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]         事務局を支える担い手が出てきた。[8]         開始時の状況       具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]         協働       「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]         本ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]			関係主体の満足度	•	他分野の人の思いが活動の推進力になっている。[8]
自立発展性				•	地域との対話・連携があるのはいい。[8]
● 事務局を支える担い手が出てきた。[8]   開始時の状況 ● 具体的なブルーフラッグを目標にしたところがよい。[8]   適			社会的インパクト	•	教育にまで広がりを見たこと。[8]
開始時の状況			自立発展性	•	行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]
開始時の状況				•	事務局を支える担い手が出てきた。[8]
協 <b>運営制度の設計</b>			開始時の状況	•	
● ステークホルダーを個別にあたることで集めた。[8]		抗	運営制度の設計	•	「ビーチカルチャー」という間口の広さ。[8]
		働		•	
				•	

				(STEWART WELL END ALL DISCLESS OF THE STATE
			•	"認証"を取ろうという誰からも分かりやすい目標設定がよい。[8]
			•	多様なステークホルダーを巻き込んでの体制づくりができていていい。[8]
		協働のプロセス	•	犬の散歩について折衷案の交渉をしたこと。[8]
			•	行政主導だったが、主体的な市民が出てきた。[8]
			•	「課題」をステップ踏んでビジョン(BF)にもっていったこと。[8]
			•	いろんな人の「こうなったらいいな」の上手な結びつけ。[8]
			•	「いいこと」に対して、どう参加させ、やる気にさせるか。[8]
			•	環境課題を観光と地域マネジメントからアプローチしたのがいい。[8]
		効率性	•	リユースびんを酒にしぼったところがよい。まわりやすい。[9]
		効果/目標達成度	•	私たちの地域にもあったらいいのにと思った。[9]
			•	取り組みの経済的なメリットを専門家から示したところ。[9]
			•	メリットを明示するという方向性がよい。[9]
			•	定量的な事実の共有。[9]
			•	見せる人の存在により、思いだけではなく、客観性が担保できるのはいい。[9]
		티프로기사	•	見せる人を入れて、見せ方を上手くし成功したこと。[9]
F - 7		計画妥当性	•	これまで活用(着目)されていない日本酒へのアプローチがいい。[9]
[9]			•	リサイクルよりリユースに納得。[9]
中			•	課題と解決策が明解。[9] "市の政策"というゴールとその共有。[9]
部	_	   関係主体の巻込度	•	参加者が増え、地域のしくみとして広がってきた。[9]
リ サ	事業	関係土体のを込度	•	参加有が増え、地域のしくみとして広かってきた。[9] オープン型の巻き込み。「9]
イ	~		•	見せる人と経済評論家をステークホルダーに加えたこと。「9]
1 ク			•	地域の意思決定者の巻き込み。「9〕
ル			•	マテリアルフローの整理とステークホルダーの巻き込み。「9]
運			•	ステークホルダーの視点に立った団体・有識者の巻き込み。[9]
動		関係主体の満足度	•	参加者が増え、地域のしくみとして広がってきた。「9]
市		IXIN TITO IN CX	•	メリットを明示するという方向性がよい。[9]
民			•	定量的な事実の共有。[9]
の		社会的インパクト	•	"市の政策"に反映された。[9]
会			•	"市の政策"への反映は他の活動への大きな参考モデル。[9]
			•	リユースが進むことで、製造の段階からゴミが出なくなる。[9]
		自立発展性	•	"市の政策"への反映は他の活動への大きな参考モデル。[9]
		開始時の状況		
		運営制度の設計	•	取り組みの経済的なメリットを専門家から示したところ。[9]
	協		•	見せる人の存在により、思いだけではなく、客観性が担保できるのはいい。[9]
	働		•	"市の政策"というゴール(政策協働)とその共有。[9]
			•	ステークホルダーの視点に立った団体・有識者の巻き込み。[9]
		協働のプロセス	•	マテリアルフローの整理とステークホルダーの巻き込み。[9]
		効率性	•	地域おこし協力隊の役割を活かして、広域行政の連携がとれている。[10]
			•	農家から見て漁師がチームに入ったことは大きかった。[10]
			•	多様な主体へのヒアリング、ワークショップ、雑談からよいアイデアが生まれる。[10]
		効果/目標達成度	•	ESDが広がり、会話の中に出て来る。[10]
[10]			•	形式的な流域協議会から動く役割を持たせた。[10]
吉		計画妥当性	•	形式的な流域協議会から動く役割を持たせた。[10]
野			•	紀の川/県境を越えた直接の自治体間連携。(流域視点)[10]
)II			•	体験など行動ベースのものがプログラムに組み込まれているところがいい。[10]
紀		関係主体の巻込度	•	トップダウンとボトムアップの組み合わせを基調としていること。[10]
の	事業		•	異分野の接点づくり。[10]
Л	未		•	様々な人々の話しあい。[10] 農家から見て漁師がチームに入ったことは大きかった。[10]
源			•	長家から兄 く庶師がデームに入ったことは入さかった。 [10] 人と話す対話から事業へつなげているところがいい。 [10]
流			•	
物				紀の川/県境を越えた直接の自治体間連携。(流域視点)[10] 多様な立場の人との対話・コミュニケーション。[10]
語			•	多様な立場の人との対話・コミュニケーション。[10] メンバーの多様性と対話。[10]
		   関係主体の満足度	•	#常に広範なエリアをカバーし、取り組み、合意形成に結びつけられたのは、簡単では
				ない。[10]
		社会的インパクト	•	ESD という言葉を一般化しようとしたとりくみはすごい。[10]
		ITAHITOTOT	•	行政区を越えた流域で取り組むことは他地域の参考になる。相模原市の取組も生産か

			ら販売までのサプライチェーン構築には、行政区をこえた「流域による」取り組みが重要。[10]
			● 協議会からはじまり息の長い取組に感嘆。そのさらなる再生ということで今後も注目した
			ν <sub>°</sub> [10]
			● 真の流域連盟 良い言葉。[10]
			● 流域視点のつながりが興味深い。[10]
		自立発展性	● スタートアップから地域主体行動へのプロセスは優良モデル。[10]
		開始時の状況	● 各主体が既存の活動の延長で無理なく動けること。[10]
		運営制度の設計	<ul><li>■ 気軽に話し合う機会の活用。[10]</li></ul>
		<b>建日间及</b> 00000	<ul><li>トップダウンとボトムアップの組み合わせを基調としていること。[10]</li></ul>
			● 紀の川/県境を越えた直接の自治体間連携。(流域視点)[10]
			● 各主体が既存の活動の延長で無理なく動けること。[10]
			● 多様な立場の人との対話・コミュニケーション。[10]
	協	•	● メンバーの多様性と対話。[10]
	働	協働のプロセス	● 一緒に現地を見に行ったことがいい。[10]
			● 多様な主体へのヒアリング、ワークショップ、雑談からよいアイデアが生まれる。[10]
			● 非常に広範なエリアをカバーし、取り組み、合意形成に結びつけられたのは、簡単ではない。[10]
			● 協議会からはじまり息の長い取組に感嘆。そのさらなる再生ということで今後も注目した
			い。[10]
			● 雑談から事業が生まれる。[10]
		効率性	● 人集めがいい。[11]
		効果/目標達成度	● 現場の実践とともに、これを支える基盤をつくられていること。(政策協働)[11]
		=1	● 年間実施までこぎつけられたこと[11]
	事業	計画妥当性	•
	*	関係主体の巻込度 関係主体の満足度	<ul><li> ■ 社会資源を対話でつなぐところがいい。[11]</li></ul>
[11]		社会的インパクト	● 程式質///を対話であることのがいい。[11] ● 環境教育として充実した内容となっているのがいい。[11]
bioa		自立発展性	● 行政とNPO がつながる協働体。[11]
		開始時の状況	•
	1+	運営制度の設計	● 社会資源を対話でつなぐところがいい。[11]
	協働		● 熱意を新たな役割につなげたところ。[11]
	1-43		● 行政と NPO がつながる協働体。[11]
		協働のプロセス	<ul><li>行政とNPO がつながる協働体。[11]</li></ul>
		効率性	● 参加者の多さ。[12] ● 地域が参加している現況把握調査がいい。「12]
		効果/目標達成度 計画妥当性	● 地域が参加している現況把握調査がいい。[12] ● 市民セクターを 2 つに分けられたのが興味深い。議員の巻き込みを可能としたのが良
		前四女当任	い。[12]
		関係主体の巻込度	● ステークホルダーの掘り起し。[12]
[12]	事業		● 地域が参加している現況把握調査がいい。[12]
ア	~		● 益田川の関心を住民に持たせることから、議会等を巻き込めたこと。[12]
ン		関係主体の満足度	● 市民セクターを 2 つに分けられたのが興味深い。議員の巻き込みを可能としたのが良
ダ		41 0 46 75 .0 61	ν <sub>0</sub> [12]
ンテ		社会的インパクト自立発展性	<ul><li>● 参加者の多さ。[12]</li><li>● 様々な手法の組み合わせにより、関心喚起や参加を広げていること。[12]</li></ul>
21		開始時の状況	● 様々な手法の組み合わせにより、関心喚起や参加を広げていること。 [12] ● ステークホルダーの掘り起し。 [12]
		運営制度の設計	● 市民セクターを 2 つに分けられたのが興味深い。議員の巻き込みを可能としたのが良
	協	~======================================	V; [12]
	働	協働のプロセス	● 住民との対話、対応を丁寧に行っていること。[12]
			● 地域が参加している現況把握調査がいい。[12]
			● 益田川の関心を住民に持たせることから、議会等を巻き込めたこと。[12]
[13]		効率性	
み ず	#	効果/目標達成度 	● 将来のまちづくりを担う子ども、若者の巻き込みに成功したのが最大の成果ではない。 か、「127
J	事業	計画妥当性	か。[13] <ul><li>明確なビジョンがいいです。目標があれば協働できるステークホルダーは広がると思い</li></ul>
ま		可图交当压	ます。[13]
財			<ul><li> ■ 難しい公害問題にソフトな「環境教育」というアプローチは、着実に「若者」へ拡大して</li></ul>

団			いる。[13]	
जि		   関係主体の巻込度	、'る。 [13] 場をはじめに作った。 [13]	
		対応工体の合込度		込みに成功したのが最大の成果ではない
			か、[13]	となる。
			~。。[13] バイクビズみずしまなどを通した子どもたちの	の音見の取り込み。[13]
			地域、まちづくりにつながる「若者」が元気で	
			明確なビジョンがいい。目標があれば協働で	
				うアプローチは、着実に「若者」へ拡大して
			2000日前後でファイな「衆税教育」とVI	プラロー アは、有关に「石石」 「MACOC
		 関係主体の満足度	* ~。。[13] 対話を通した地域との取組がいい。[13]	
		社会的インパクト	広く関心を持ってもらうためのわかりやすい。	イラストパンフの作成 「13]
		「五女用リーンハフト	地域ブランド的なビジョンづくりとなっている	
		 自立発展性	協働も参加の広がりも着実に進んでいる様	
			地域ブランド的なビジョンづくりとなっている	
		  開始時の状況		CC <sub>0</sub> [13]
		運営制度の設計	場をはじめに作ったこと。[13]	
		(建当前及の政制	対話を通した地域との取組がいい。[13]	
			明確なビジョンがいい。目標があれば協働で	できスステークホルダーけ広がる「13]
		協働のプロセス	バイクビズみずしまなどを通した子どもたちの	
		加助のプロピス	協働も参加の広がりも着実に進んでいる。[	
	協		対話を通した地域との取組がいい。[13]	13]
	働			込みに成功したのが最大の成果ではない
			か。[13]	Mary Control of Control of the Charles
			~。。「13」 地域、まちづくりにつながる「若者」が元気て	∜\\\. [13]
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	うアプローチは、着実に「若者」へ拡大して
			いる。[13]	
			広く関心を持ってもらうためのわかりやすい。	イラストパンフの作成。 [13]
		効率性	高齢化した団体との連携が、活動への信頼	
		223 1 12	地元の人に「話をしてもらう」のが上手。[14]	
			団体の構成員の年齢層がバラエティに富ん	
			生物多様性「トコロジスト」を活用することで	
		効果/目標達成度	ごみ問題と循環型農業を結びつけて、農家	
			耕作放棄地×生物多様性の二つのテーマに	こついて、時間をかけて関連付けたことで市
			内部での連携がすすんだ。[14]	
		計画妥当性	「トコロジスト」という言葉・概念を導入したこと	とで一体感をも持った。[14]
			生物多様性「トコロジスト」を活用することで	多様な主体が参加した。[14]
			「地域の魅力」から"農業"→"環境"への拡力	ヤアプローチは優れている。[14]
	事業	関係主体の巻込度	地元の人に「話をしてもらう」のが上手。[14]	
[44]	*		ステークホルダーごとに価値を説いた。[14]	
[14]			楽しく活動できるためのステークホルダー選	びがなされている。[14]
森か			ごみ問題と循環型農業を結びつけて、農家	
らら			時間を共有することが、団体と市の信頼関係	系に結びついた。[14]
2			高齢化した団体との連携が、活動への信頼	を生んだ。[14]
づ			機運が高まるベース作りになった。[14]	
<		関係主体の満足度	いきなりではイメージしづらいものもイベント	、などを回数こなすことで、イメージが湧くだ
道			けでなく主体性が生まれた[14]	
, <u>LE</u>		社会的インパクト	課題・解決策、方向性も良好。[14]	
		自立発展性		
		開始時の状況	事業提案から生まれる協働がいい。[14]	
			高齢化した団体との連携が、活動への信頼	
		運営制度の設計	楽しく活動できるためのステークホルダー選	
			社会学習施設との線引きについて、気をつ	
	協		時間を共有することが、団体と市の信頼関係	系に結びついた。[14]
	働		機運が高まるベース作りになった。[14]	
		協働のプロセス	時間を共有することが、団体と市の信頼関係	
			ステークホルダーごとに価値を説いた。[14]	
				、などを回数こなすことで、イメージが湧くだ
			けでなく主体性が生まれた。[14]	

		効率性	•	
		効果/目標達成度	•	子どもをつなげる交流がいい。[15]
		計画妥当性	•	環境教育のマッピングシステムがいい。[15]
		関係主体の巻込度	•	広域的な3市連携の仕組み。[15]
	-	国际工体の合立及	•	「教育委員会」を動かせたのはいい。[15]
[45]	事業		•	温暖化防止活動推進員の巻き込み。[15]
[15]	^	 関係主体の満足度	•	価吸信例工作期間に再り合うだめ。[13]
環境		社会的インパクト		
		社会的インハクト	•	情報発信をメディアと組んで進めたこと。[15] マスコミ(CATV)を入れたことはいい。「15]
の +±		<b>∸</b> + ≫ <b>□</b> ₩	•	マハコミ(CAIV)をハイいにことりはV 'V '。[13]
杜 こ		自立発展性	•	
う		開始時の状況		フニーカナルが、のオルの海いた四部ナファル「157
5		運営制度の設計	•	ステークホルダーの文化の違いを理解すること。[15]
, ,	1+		•	話し合う関係性ができたことがいい。[15]
	協働		•	広域的な3市連携の仕組み。[15] 「教育委員会」を動かせたのはいい。[15]
	J±/J		•	温暖化防止活動推進員の巻き込み。[15]
		<u></u> 協働のプロセス		ステークホルダーの文化の違いを理解すること。[15]
		が倒りプロでへ	•	話し合う関係性ができたことがいい。[15]
			•	専門家を含め主要なステークホルダーをすべて巻き込めている。[16]
		効果/目標達成度	•	(農地に由来する赤土問題の)メカニズムがわかりやすい。[16]
		別末/日保廷队及	•	研究機関との連携によるデータの可視化。[16]
			•	が 元 版 関 と の 足 透 に よる ア 一 テ の 可 祝 に 。 [16] 成 果 の 見 え る 化 が よ い 。 [16]
		 計画妥当性	•	研究機関との連携によるデータの可視化。[16]
		前四女当江	•	成果の見える化がよい。[16]
			•	ソーシャルビジネス化を取り入れて持続可能に。[16]
			•	継続に向けた持続可能な取組を検討している。[16]
			•	先の目標ができている。[16]
		 関係主体の巻込度	•	ピラミッド型連携から円形(横連携)に発展し機能しているのがすばらしい。[16]
		は水工体の心を反	•	地域に根ざした活動がいい。[16]
			•	ステークホルダーが多様。[16]
	事業		•	専門家を含め主要なステークホルダーをすべて巻き込めている。[16]
[16]			•	JA と県漁連のつながりを作った。[16]
03	耒		•	NPO と農家をつなぐコーディネーターの存在が鍵。[16]
き			•	課題関係者以外を巻き込んだ取組がいい(アロマオイルなど)。[16]
な			•	地域の方との膝詰めの対話(交流会の開催など)。[16]
わ		関係主体の満足度	•	多様なツールでステークホルダーを巻き込む戦略がすばらしい。[16]
グ			•	各主体のメリットを共有するための工夫は大切。[16]
IJ			•	課題関係者以外を巻き込んだ取組がいい。(アロマオイルなど)[16]
<u> </u>		社会的インパクト	•	相談窓口としての役割。[16]
ンネ			•	JA と県漁連のつながりを作った。[16]
カッ		自立発展性	•	地域の農業の問題(赤土対策)→地域住民全体で取り組む→協働のメリットを発見→
·				円環連携→それぞれの役割が明確。[16]
7			•	ソーシャルビジネス化を取り入れて持続可能に。[16]
ĺ			•	継続に向けた持続可能な取組を検討している。[16]
<u>ہٰ</u>			•	先の目標ができている。[16]
		開始時の状況	•	実績を積み上げているからこそ、地域外の団体にもかかわらず、地元の人からの信頼
				を得ている。[16]
		運営制度の設計	•	ステークホルダーが多様。[16]
			•	対話がいい。[16]
			•	専門家を含め主要なステークホルダーをすべて巻き込めている。[16]
	協		•	課題関係者以外を巻き込んだ取組がすごい(アロマオイルなど)。[16]
	働		•	多様なツールでステークホルダーを巻き込む戦略がすばらしい。[16]
		1+1710	•	各主体のメリットを共有するための工夫は大切。[16]
		協働のプロセス	•	地域の農業の問題(赤土対策)→地域住民全体で取り組む→協働のメリットを発見→
				円環連携→それぞれの役割が明確。[16]
			•	強みを生かす関係づくりから信頼関係が生まれる、というプロセス。[16]
			•	ステークホルダーの成長がいい。[16]
			•	NPO と農家をつなぐコーディネーターの存在が鍵。[16]

			● 課題関係者以外を巻き込んだ取組がいい。(アロマオイルなど)[16]
			● 地域の方との膝詰めの対話(交流会の開催など)。[16]
		効率性	● 首長のバックアップがいい。[17]
			● 団体内部の役割分担も大切。[17]
		効果/目標達成度	● 環境保全指標(協働のシンボル)としてのクロツラヘラサギの有効活用。[17]
			● 主体者だけでなく、関係することによる意識付けやブランド化。[17]
		計画妥当性	● 課題、解決策、目的が明確。「17〕
			● 協働の取組を細分化しつつ、大きい枠を設ける仕組みとハンドリングがよい。[17]
		関係主体の巻込度	● 組織の強みを活かす場のプロデュースが巧み。[17]
			● 地域住民と活動しているところがいい。[17]
			● 国、県、市と多様な行政がつながっている。[17]
	事		● 自治会のネットワークにより協働が広がった。さらに新しい自治会がネットワークに加わ
	事業		る流れになった。[17]
		関係主体の満足度	● 地元の小学校から環境学習の要望があったこと。[17]
[17]			● 自治会の人たちの意識を変えたことはすごい。[17]
<			● マイクロパートナーシップによる目的意識の変化[17]
す			● マイクロパートナーシップによる当事者意識の変化。[17]
の			● 湿地の保全をとおして地域への愛着が高まった。[17]
木		社会的インパクト	● 湿地の保全をとおして地域への愛着が高まった。[17]
自			● 自治会の人たちの意識を変えたことはすごい。[17]
然		自立発展性	● マイクロパートナーシップによる当事者意識の変化。[17]
館			● 湿地の保全をとおして地域への愛着が高まった。[17]
		開始時の状況	● 自治会のネットワークにより協働が広がった。さらに新しい自治会がネットワークに加わ
			る流れになった。[17]
			● NPO と住民の信頼関係。[17]
		運営制度の設計	● 組織の強みを活かす場のプロデュースが巧み。[17]
			● 対話の場づくりがいい。[17]
	協働		● 団体内部の役割分担も大切。[17]
	働	協働のプロセス	● 協働の取組を細分化しつつ、大きい枠を設ける仕組みとハンドリングがよい[17]
			● 自治会のネットワークにより協働が広がった。さらに新しい自治会がネットワークに加わ
			る流れになった。[17]
			● マイクロパートナーシップによる目的意識の変化。[17]
			● マイクロパートナーシップによる当事者意識の変化。[17]
			● 湿地の保全をとおして地域への愛着が高まった。[17]

[1]公害資料館ネットワーク/[2]「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会/[3](有)三素/[4](一社)あきた地球環境会議/[5]『米 im』My 夢』Oshu(マイムマイム奥州)/[6](公財)オイスカ/[7]さがみ湖森・モノづくり研究所/[8](一社)若狭高浜観光協会/[9](特活)中部リサイクル運動市民の会/[10](公財)吉野川紀の川源流物語/[11] bioa(ビオア)/[12](特活)アンダンテ 21/[13](公財)水島地域環境再生財団(みずしま財団)/[14]NPO 森からつづく道/[15](特活)環境の杜こうち/[16](特活)おきなわグリーンネットワーク/[17](特活)くすの木自然館

## 【表付録 3-2:協働ギャザリング参加者の評価コメントに基づく「プロジェクト・マネジメント」/「協働ガバナンス」の提案・改善点】

	提案•莅	改善点
	「プロジェクト・マネジメント」(事業)	「協働ガバナンス」(協働)
[1] 公害資料館ネットワーク	<ul> <li>世界への発信方策。[1]</li> <li>海外ネットワーク構築による影響力の向上。[1]</li> <li>世界へ発信。現在進行形の公害に対して、どういう提案ができるのか?[1]</li> <li>取り組みをパンフ化しては?[1]</li> <li>具体的資料や医学的資料の共有があるといい。[1]</li> <li>語り部の減少にどう対応していくのか。[1]</li> <li>語り部の生の声大事。歴史からどう学ぶか、ESD 行動促進プログラムへ。[1]</li> <li>世界にむけた資料館ネットワークの役割は?[1]</li> <li>事務局をまわす仕組み。[1]</li> </ul>	<ul> <li>ネットワークとしての周辺ステークホルダーへのアプローチの向上[1]</li> <li>1年を通した協働による変容の可視化。[1]</li> <li>ネットワークに参加しなかった資料館の取扱い[1]</li> <li>ネットワーク形成に得られたノウハウの共有[1]</li> <li>3年間のプロセス、成果と課題の可視化。[1]</li> <li>協働のアプローチにおける試行錯誤も連携先と相談・共有しては?[1]</li> <li>事務局をまわす仕組み。[1]</li> </ul>
[2]人と海鳥と猫が共生する天売島 連絡協議会	<ul> <li>「ネコの増えた原因」「ネコの数」等の数値的な情報を明らかにしてもらいたい。[2]</li> <li>ノラネコはどのくらい島にいて、譲渡はどのくらい行う予定なのか。[2]</li> <li>ノラネコの減少数と生態系への影響について調査結果の共有を。[2]</li> <li>元々この島にどれ位のネコがいて何が原因で増えたのか。[2]</li> <li>過去と現在までのネコの増減状況をデータでしつかり把握すべき。[2]</li> <li>どのくらいまでネコが減れば適性なのか?[2]</li> <li>海鳥保護の結果をデータで示すと成果が客観的でわかりやすいのではないか。[2]</li> <li>環境教育は?「保護・馴化」(現在)と「教育」(未来)の両輪が必要。「教育」にも力を入れては?[2]</li> <li>ESD 教材にしては?[2]</li> <li>全国の動物好きの小学生のためにストーリーそのものを絵本にしてほしい。そうすることで、ファンが全国に広がり、資金支援や来訪につながる。[2]</li> <li>ノラネコを増やさない対策=猫の捕獲!ノラネコゼロが目的?[2]</li> <li>天売猫をブランド化できそう。[2]</li> <li>天売温にネコカフェをつくる。[2]</li> <li>ネコカフェのようなところに引き取ってもらってはダメなのか?[2]</li> <li>フェンスで囲っては?[2]</li> <li>生態系の管理は不要?島だけではなく、周囲との連携は不要?[2]</li> <li>ドブネズミの問題は別に考えた方がいいのは?[2]</li> <li>来訪者が増えることで生まれる環境リスクへの対応は?[2]</li> <li>聖親探しに Facebook とか活用?[2]</li> <li>繁殖地の地権者は?[2]</li> <li>海鳥を観光資源としている事例は?海鳥保護の物理的な拠点は?[2]</li> <li>参考事例は?[2]</li> </ul>	<ul> <li>今後の島民の巻き込みの具体的手法は?[2]</li> <li>財源は?持続可能な取り組みか?[2]</li> <li>連絡協議会発足の経緯は?[2]</li> </ul>

[3] 三 素	<ul> <li>小水力の電気は、日常的にはどのように使われるのか?[3]</li> <li>対外的 PR に「防災」をキーワードとすると受け入れやすい。[3]</li> <li>村民の意見を活かす。[3]</li> <li>参加型調査を村の学びの場として位置づけるべき。[3]</li> <li>子どもがかかわれないか?(小学生は6年生で自然エネルギーを学ぶ)[3]</li> <li>星野リゾートの電力が全て自然エネルギーになるといい。[3]</li> </ul>	<ul> <li>富良野の人と占冠の人の相互参照の場づくり。[3]</li> <li>村民の意見を活かす。[3]</li> <li>参加型調査を村の学びの場として位置づけるべき。 [3]</li> <li>エネルギーの"地産地消"という観点でこの取り組みを位置づけると意義が高まる。[3]</li> <li>まずは対象となる地域のペース、活動のステークホルダーの十分な分析・検討を。[3]</li> <li>次世代についてのことはどう考えているのか。[3]</li> </ul>
[4]あきた地球環境会議	<ul> <li>ひきこもりという表現にあまりいい印象を感じないので、誰もが楽しく働く!いろんな人が関わることのできる地域環境産業、環境教育プログラムなどの見せ方はどうか。[4]</li> <li>木ハガキの販売を良好にまわす仕組みは?購入層は?ニーズは?[4]</li> <li>ひとつの事業を採算ベースにのせるために具体策が必要。[4]</li> <li>事業採算性は?事業の継続性は?[4]</li> <li>町内の名産品に木工製品を活用するようなコラボを模索してはどうか。[4]</li> <li>なぜ引きこもりが多いの?[4]</li> <li>木ハガキはどのくらいできたか?[4]</li> <li>木ハガキ以外はないのか?[4]</li> <li>新たに創出された従業者数(雇用)は?[4]</li> </ul>	<ul> <li>林野庁へ売り込んだらどうか。[4]</li> <li>ひきこもりという表現にあまりいい印象を感じないので、誰もが楽しく働く!いろんな人が関わることのできる地域環境産業、環境教育プログラムなどの見せ方はどうか。[4]</li> <li>活動の継続への費用対効果を評価してみては?[4]</li> <li>コーディネート、人材の育成をしてみては?[4]</li> <li>福祉×環境のかけ合わせの壁や突破するコツの可視化をしてほしい。[4]</li> <li>「引きこもり」の人がどのように「働くこと」の意義を主体的に持つようになるか?[4]</li> <li>社会復帰について具体的に人を動かすのにどのような協働を行ったのか?[4]</li> </ul>
[5]マイムマイム奥州	<ul> <li>環境保全と経済の効果を数字で説明できるとインパクトがあるのでは?[5]</li> <li>奥州市へ環境教育プログラムとして新提案をして、再度行政も巻き込む。[5]</li> <li>他地域、市町村に波及はさせないのか?&lt;モデル化&gt;広げた方が良い。[5]</li> <li>休耕田対策としては野鳥の取り込みや虫や花などを調査してみてはどうか?[5]</li> <li>地域の麹菌の育成をしてはどうか(より地域色を出す戦略として)。[5]</li> <li>コンサルに他地域へも来てください。[5]</li> <li>米が清算されることでまわりの米市場価格が下落しないか?[5]</li> </ul>	<ul> <li>共通ビジョンを話し合う場づくり。[5]</li> <li>活動の継続への費用対効果を評価してみては? [5]</li> <li>地域の人にどのように伝え、参加の体制を具体的に示すべき。[5]</li> <li>住民をステークホルダーに加える仕組みは?[5]</li> <li>さらなる住民参加、「学」の参加は?[5]</li> <li>地域の課題にするためにどうするかを明確にすべき。[5]</li> <li>休耕田がもたらす影響、課題を共有することがまず重要。[5]</li> <li>10 年で浸透しないのであれば、世代のターゲットを低い方に移していくこともありでは。[5]</li> <li>昔からの農家との関係性はどうか?[5]</li> </ul>
[6] オイスカ	<ul> <li>今後の方向性見えにくい。どのような自立発展性の 仕組み?[6]</li> <li>相模原の自然環境観察員制度も参考にしてはどう か。[6]</li> <li>そもそも保安材を使う→植える、というサイクルが必 要ではないか。[6]</li> <li>観光ルート/食/ボランティアにおいてジオパークと 関連付けてみては。[6]</li> <li>食べてもらうという仕組みは大変では?[6]</li> <li>"食"と"森林"保全とを分かり易く結びつけられれば、 さらに輪が広がるのでは?[6]</li> <li>お林魚のブランド化。都会からボランティアをつの り、お礼にお林魚を提供するなど。[6]</li> <li>再生への確実な手立て(調査)の構築。[6]</li> <li>調査人数?参加者の内訳は?[6]</li> <li>調査の予測は?[6]</li> <li>今後も調査活動を拡大実施していくのか?[6]</li> <li>住民×御林に関心がある人の割合は?[6]</li> </ul>	<ul> <li>地元中核主体への活動の引渡しをどのようにしていくのか。[6]</li> <li>町長のトップダウンだったものが、今は町×オイスカと協力関係か。施策での位置付けは?[6]</li> <li>行政の方は異動してしまうのにどう継続する?[6]</li> <li>外の人(オイスカ)からみた協働の阻害要因、促進要因の可視化。[6]</li> <li>一つでも地元のコアパートナーを見つけ協働体制をつくっては?[6]</li> <li>観光客の巻き込みは?[6]</li> <li>都市圏観光客が参加しやすい場づくり。[6]</li> <li>地域の子どもたちの参加促進。[6]</li> <li>子どもへのアプローチ。[6]</li> <li>単発参加者も参加できる取組があるといい。[6]</li> <li>今ある森林をそのまま未来につなぐことを目指すのか?[6]</li> <li>7000人の町民の属性は?[6]</li> <li>アピールタイムでは町の顔が見えなかったので、この取組により町の意識の変化、施策への影響などを</li> </ul>

	<ul> <li>間伐材→チップに。ボイラーの普及をしてみてはどうか?地元産のペレットストーブ、富裕層の巻き込み。 [7]</li> <li>加工材の活用先を広げていくといい。将来的には林業の担い手の育成をどうすすめるかが課題では。 [7]</li> <li>なぜ本事業に申請したのか?メリットは?[7]</li> <li>年と森林をかねそなえている地域の特色をもう少し活かせるイベントはないか。都市と森林の新しい関係。 [7]</li> <li>桂川(山梨県)、相模川(神奈川県)流域の連携を強くしてほしい。県境が邪魔している。 [7]</li> <li>どうやって経済をまわすか。まだ商売になっていない。 [7]</li> <li>事業の採算性などで継続できるようになる展望はあるのか。せっかくつながったので展開を期待。 [7]</li> <li>有後も広げ続けるのか。 [7]</li> <li>現場のドラマが経済に結びつかない。それをどうやるか。 [7]</li> <li>他の地域に展開できるようにしてほしい。 [7]</li> <li>長期的にはグローバルサステナブルツーリズム協議会(GSTC)の取得もどうか? [8]</li> </ul>	<ul> <li>もっと可視化してはどうか。[6]</li> <li>調査や活動に参加している町民の年齢層は?[6]</li> <li>森の将来の姿はどんなものか?共有されているか?[6]</li> <li>目的、ゴールの設定と共有をどの程度できているか?[6]</li> <li>クローズドな中心メンバーと、外からの力(オープンな間口)をどのようにつなぐのかが、今後の肝ではないか。[6]</li> <li>かなり多くの団体のコミュニケーションを促すコツや失敗例の可視化。[7]</li> <li>川上、川中、川下のサプライチェーンはどの程度巻き込めているか。[7]</li> <li>川上、川中、川下の課題がどこまで解決できたのか見えるようにしてほしい。[7]</li> <li>利害関係、どう調整?[7]</li> <li>山間部と都市部の森に対する意識格差が大きい。これをどう埋めるか。[7]</li> <li>責任をどこが持つか。[7]</li> <li>オーラムという形式のメリットは?[7]</li> <li>メリットは全てのステークホルダーあるのか?そういう仕組みにしてほしい。[7]</li> <li>たくさんの人たちを巻き込むのは良いことだが、まとめるのが大変では。[7]</li> <li>権関原ベースでモデル化を期待。市民中心で意見をまとめていく。[7]</li> <li>相模原ベースでモデル化を期待。市民中心で意見をまとめていく。[7]</li> <li>体長を信じるといい。[8]</li> <li>行政として、この事業の意味を可視化すると分かりやすい。[8]</li> <li>ブルーフラッグの有する地域マネジメントのノウハウを今後の恊働取組に最大限に活用していただきた</li> </ul>
観光協会 9 中部リサイクル運動市品	<ul> <li>行政の施策になるメリット・デメリットは?[9]</li> <li>詳しく商品など知りたい。古いビンフェスや江戸ガラスなど日本のビン文化は多様。[9]</li> <li>リユースビンの形状規格が統一されているなら流通もしやすいが、(市民等にわかる)協働は難しいか?[9]</li> <li>お酒以外の食料への広がり。[9]</li> <li>Before-After を(数字も使って)もっとPRしては?[9]</li> <li>イベントとかで普及させるといい。[9]</li> <li>学校給食でも採用してはどうか?[9]</li> <li>なぜ日本酒ビンに限定?ワイン、調味料への展開</li> </ul>	<ul> <li>い。[8]</li> <li>「見せる人」が具体的にどんな作用をしたのか知りたい。[9]</li> <li>利害が発生する可能性のある組織との関係作りにおけるコツの可視化を期待。[9]</li> <li>見せる人+経済評論家をどのようにくどいて参加してもらったか?[9]</li> </ul>
民の会 [10] 吉野川紀の	は?[9]      産業化への展開。[10]     和歌山大学の観光学部が面白い活動をしているので、何かヒントがあるかもしれない。[10]     "しらす"を上流で売り、"木材"を下流で売る。[10]     流域での市民科学ネットワーク構築。(水調査、地域産業)[10]	<ul> <li>エリアが広いので、これをどうつなげるかが最大の課題。協議会の分科も一案か。[10]</li> <li>森づくり、林業の課題を流域で共有するしくみづくりを。[10]</li> <li>ノウハウ(特に立ち上げから地元参画まで)の発信共有をより具体的に。[10]</li> </ul>

川源流物語	<ul> <li>協議会としての振興ビジョンづくりに是非挑戦をしてもらいたい。[10]</li> <li>産業、ものづくり、ものの移動そのものも一流であってほしい。[10]</li> <li>子どもたちが作る"水質マップ"。[10]</li> <li>環境教育学校における「カリキュラムデザイン」との関係は?[10]</li> <li>ESDとしての到達目標は?[10]</li> <li>ESDを実践する場として学校にこだわる必要はないのでは?[10]</li> <li>財団設立10年とのことだが、どういうきっかけで今回の取組に踏み切った?[10]</li> </ul>	<ul> <li>教材化のゴールは?どう定着させるか、しかけをどうしているか。[10]</li> <li>ゆるいつながりということか?[10]</li> <li>流域で活動する市民団体とのつながりは?[10]</li> <li>この事業は期間が限られているが、資金面で今後どうやっていくか考えているか?[10]</li> <li>関係者へのヒアリングにはどんなメンバーで行ったのか?[10]</li> <li>一次産業の従事者が集まって話す機会はどれくらいあったのか?[10]</li> <li>ヒアリングを戦略的におこなったか?[10]</li> <li>地域間のあつれきはあったのか?[10]</li> <li>この事業をきっかけに役所内外で動きはじめたことはあったのか?[10]</li> <li>真の流域連携とは、どんなことなのか?[10]</li> <li>人事異動は避けられないが、それにどう対処するか?[10]</li> <li>協議会の意義を再確認する機会はあるのか?[10]</li> </ul>
[11] bioa	<ul> <li>モデル校での取組を波及させる為の具体的方策は?[11]</li> <li>副教材づくりを糸口として進めていく方法もある。[11]</li> <li>来年度以降の取組は?[11]</li> <li>資金的な持続性は?[11]</li> <li>これまでの環境教育とはどう違う? [11]</li> <li>ESDを継続するための工夫(基金や施策化など)が必要。[11]</li> <li>プレイヤーと環境行政はしっかりつながっているのであれば、あとは教育委員会の巻き込み方。[11]</li> <li>自治体が学校に環境学習プログラムをつなぐ仕組みをつくっては?[11]</li> <li>茨木市と大阪府の環境教育団体同士のツールや情報の共有もしていけたら。[11]</li> <li>環境基本計画の中には位置づけられているが、具体的なアクションプランにはなっていない[11]</li> <li>32 校全部一気に進めるのは無理なので、モデル校を市で募ってはどうか。[11]</li> </ul>	<ul> <li>● 励融云の息義を再催認りる機云はあるのか?[10]</li> <li>● 小学校での授業プログラム実施に至った経緯、誰を巻き込んだかを知りたい。[11]</li> <li>● 既存の環境リーダーとの連携は?[11]</li> <li>● bioa さんと各主体とのかかわり合いについて運営手法は?[11]</li> <li>● 住民同士の仲間づくりを進めては。[11]</li> <li>● 地域市民の巻き込みはどうか?地域の歴史を知るのは元々住んでいる人だと思うので、ESDの視点でのプラットフォームに農村の方が参加できると良いのでは?[11]</li> <li>● bioa 以外の環境教育団体はどうする?ESDのテーマをお金持ちの団体や組織のテーマに近付ける。[11]</li> <li>● 大学のゼミや研究を教育に活かしてもらう方法もある。[11]</li> <li>● 教育を受ける子どもが地域づくりの担い手になるようにするといい。[11]</li> <li>● ネットワークを自立したものにし過ぎない。(行政職員が異動した時も継続させるために)[11]</li> <li>● 学習活動(小学、中学)を参加させる手法を詳しく知りたい。[12]</li> </ul>
・ ン ダ ン テ 21		<ul> <li>メディアを対立的ではなく、活動への賛同者として巻き込めるといい。[12]</li> <li>汚染源企業の立場に立った巻き込み方。[12]</li> <li>提言策定のプロセスでの気づき、学びの可視化。 [12]</li> </ul>
[13] みずしま財団	<ul> <li>● 八間川で大人が遊ぶ。[13]</li> <li>● 独自で継続して運営する方法の構築は?(運営資金等)[13]</li> </ul>	<ul> <li>学生が自分たちで始めやすいワークショップなどを開いてはどうか?[13]</li> <li>ステークホルダーが主導(?)者になるといい。[13]</li> <li>H28、次のステップに進むためにステークホルダーのニーズ、協議会でやりたいことの整理が必要。そのうえで協定などを利用。[13]</li> <li>日本ではまだオーフス条約がない。しかし、協議会の場を大切に継続することで見えてくる。[13]</li> <li>連携の幅(深度)を広げるべき。まだ接点が薄い。[13]</li> <li>協定などの具体的目標(見える)を定めることで、持続するのでは。[13]</li> <li>3年モデルだからこそできたことの可視化。[13]</li> </ul>

[14] 森からつづく道	<ul> <li>春休みなどを利用したインターン制度をつくっては?[14]</li> <li>他の県からユースを呼べないか。高専、大学(農・商)など。[14]</li> <li>市外の学生のまきこみ。[14]</li> <li>市役所との連携であるが、環境モデル都市づくりの政策立案につなげていくかが鍵。[14]</li> <li>事務局の負担軽減の工夫(分担)。[14]</li> <li>今後展開するためのプラットフォームはできているのか?(事務局、予算)[14]</li> </ul>	<ul> <li>市の保全計画との整合性の確認を。[14]</li> <li>地域連携保全活動計画のどの部分を進めているのか示す必要。具体的な活動の内容を決める際はどういうプロセスで決めたのか示す。[14]</li> <li>まだ巻き込めていないと思う団体(ステークホルダー)はいるか?[14]</li> <li>大学や学校にアプローチしてみては?[14]</li> <li>共通の目標をどう共有したか。[14]</li> <li>松山市が策定した「地域連携保全計画」と本事業の活動の内容は一致している?[14]</li> <li>環境モデル都市「生物多様性保全」は組み込まれているの?[14]</li> <li>JAは?[14]</li> <li>もしも団体さんがいなければ、この課題に対して市はどうしていたと思うか?[14]</li> <li>ロイアルアイゼンへのアプローチはどのように行ったか?[14]</li> </ul>
[15] 環境の杜こうち	<ul> <li>マンネリ化しないような(テーマの工夫等)が必要と思われる。[15]</li> <li>学校の先生が環境学習できるようになるためのスキルアッププログラム作り。[15]</li> <li>先生が教えられるようになるためのプログラムは?[15]</li> <li>会後は、テレビ高知など、大きな媒体にも大きく広報されるといい。モチベーションが高くなる。[15]</li> <li>流域をめぐるスタディツアーをやってみては?[15]</li> <li>川の分析は?[15]</li> <li>環境教育のテーマが川(河口)をきれいに。言葉だけでなく、自然保護、温暖化問題にもつながるような拡がりをもつと、環境教育のフィールドが広がるのでは。[15]</li> <li>先生の授業の中で活用できる場を使う。[15]</li> <li>学びの場、施設、企業、市民団体の現場活動。[15]</li> <li>学校とのアプローチは教育委員会でなく、学校長へアプローチ(「校長会」とか)も有効と思う。[15]</li> <li>大学との連携は?(高知大、農学部など)[15]</li> <li>平成28年度はモデル校で実践する。[15]</li> <li>受験等などの現実について先生方はどう思っているか?[15]</li> <li>「美南国」を「チュラグニ」と呼んでは?[15]</li> </ul>	<ul> <li>まずはビジョンをつくり共有しては。[15]</li> <li>エコンシティプロ内部の方針や理解共有は十分か?成果への役割、貢献が見えない。[15]</li> <li>自治体との対話を行う上で、留意点の可視化。[15]</li> <li>子どもたちのために地域の人の目に触れるように。[15]</li> <li>地域の人たちが動く連携が必要。[15]</li> <li>今年度は基礎になるつながりの一歩。[15]</li> <li>地域の子どもたちのためになることには、いろんな人や組織は協力できると思う。[15]</li> </ul>
[16] おきなわグリーンネットワーク	<ul> <li>植栽に対する協力農家さんの反応はどうか? [16]</li> <li>JAをもっと巻き込むべきでは? [16]</li> <li>事業継続のため、資金を自ら獲得・創出できるか? [16]</li> <li>いろいろな種類(色)の赤土をビンの中に層状につめたらアート的な商品になるのでは? [16]</li> <li>泥団子学習キッドを開発すれば、収入になるのでは? [16]</li> <li>添るさと納税や観光(民泊)、ベチバーの活用などを農家と連携する。 [16]</li> <li>ベチバーやレモングラスの葉は防虫効果のあるマルチになる。 [16]</li> <li>土に特化した環境教育プログラムができないか? [16]</li> <li>小学生と高校生では環境教育の内容は違うのか? [16]</li> <li>環境学習に中学校が入っていないが、意図的にそうしているのか? [16]</li> </ul>	<ul> <li>多様な主体(とくに農家)を巻き込む工夫やノウハウを聞きたい。[16]</li> <li>多様な主体に働きかけるさいに作成したビジョンやしくみの資料作成、コツの可視化に期待。[16]</li> <li>強みを活かす関係づくりの中で、団体自らの振る舞い方が重要。[16]</li> </ul>

	<ul><li>◆ 土に特化した環境教育プログラムができないか?</li></ul>	
	[16]	
	● 学校教育で土のことをきちんと教える課程がないの	
	で、土のことを教えることは大切。[16]	
	● 泥団子づくりは子どもが夢中になるので、都会の子	
	ども向けにプログラム化しても面白い。[16]	
	● 26年度事業とどう違ったのか。[17]	● ステークホルダーの役割(働き)をもう少し具体的に
	● 昨年度の県事業の成果と今年度の加速化事業の成	知りたい。[17]
	果の違いは何か?[17]	<ul><li>◆ ネットワークの中で、行政の役割は何か?また、くす</li></ul>
	<ul><li>■ 出前講座でいった小学校はステークホルダー図に</li></ul>	の木の役割は何か?[17]
	は入っていないのか?[17]	● ステークホルダーの拡大が当面の目的か?拡大に
	● 外部メディアでの情報発信の取組は?[17]	より変わったことは?[17]
	<ul><li>★的拘束力のある施策、例えばラムサール条約の</li></ul>	<ul><li>◆ 今後、地域の誰を対象に、どうやって戦略的に連携</li></ul>
	条件はクリアしているのか?ステークホルダーには	を拡大・維持を進めるのか、具体性が見えにくい。
	周知しているのか?[17]	
	● 自治会の力は弱いが、鹿児島はどうなのか?[17]	● 自治会への最初のアプローチは誰が、どうやって行
	● 今年度の着地点はどこか?[17]	っているのか?[17]
[17]		<ul><li>● 地域の軋轢や利害の衝突はあったか?[17]</li></ul>
<		<ul><li>● キーパーソンを設けて、ネットワークとしての活動をも</li></ul>
す		っと進めてもよいのでは?[17]
の		● 企業はどのようにかかわることができたのか?[17]
木		● 年度ごとのネットワーク効果の見える化と、それをス
自		テークホルダーと共有する。[17]
然		● 法的拘束力のアイデアは?また、その際の住民の役
館		割は?[17]
~-		● 懇話会参加住民の意識・行動の変容の可視化。
		● オイスカのように、現場の確認プロセスを取り入れて
		みてはどうか?[17]
		● 自治会への最初のアプローチは誰が、どうやって行
		っているのか?[17]
		1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		<ul><li>地域の軋轢や利害の衝突はあったか?[17]</li><li>△欠席のおまれままのた。。</li></ul>
		● 今年度の加速化事業のキーパーソンは誰か?[17]
		● 各ステークホルダーの取組の熱意の違いは?[17]
		● 新規ステークホルダーが参加したことにより加速化し
		たことは何か?[17]

[1]公害資料館ネットワーク/[2]「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会/[3](有)三素/[4](一社)あきた地球環境会議/[5]√米 im√My 夢√Oshu(マイムマイム奥州)/[6](公財)オイスカ/[7]さがみ湖森・モノづくり研究所/[8](一社)若狭高浜観光協会/[9](特活)中部リサイクル運動市民の会/[10](公財)吉野川紀の川源流物語/[11] bioa(ビオア)/[12](特活)アンダンテ 21/[13](公財)水島地域環境再生財団(みずしま財団)/[14]NPO 森からつづく道/[15](特活)環境の杜こうち/[16](特活)おきなわグリーンネットワーク/[17](特活)くすの木自然館